

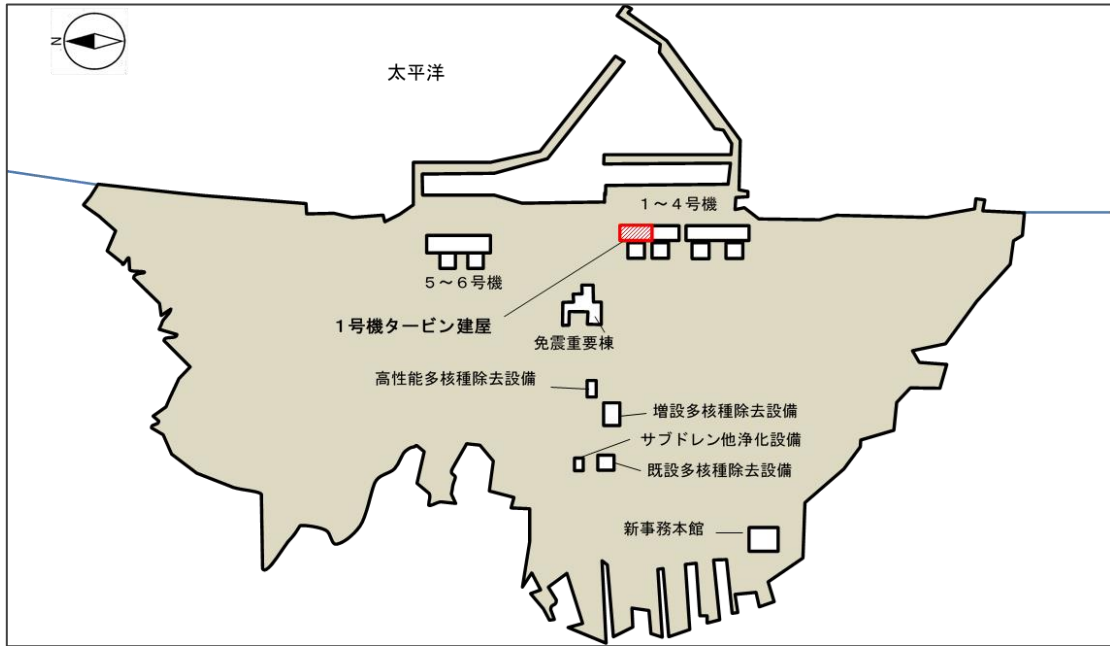
福島第一原子力発電所現地確認報告書

- 1 確認日
令和3年2月3日（水）
- 2 確認箇所
1号機タービン建屋2階
- 3 確認項目
1号機原子炉格納容器ガス管理設備排気ファン全台停止事象の再発防止対策
- 4 確認結果の概要
令和2年11月に作業員の誤操作により発生した1号機原子炉格納容器ガス管理設備排気ファン全台停止事象[※]の再発防止対策の実施状況等を確認した。（図1）（前回確認：[令和2年11月16日](#)）
 - ・東京電力は、当該事象が発生した原因として、主たる作業（サーバ記憶媒体交換）に付随する作業（警報確認）について、リスク抽出や作業要領書への記載に不十分な部分があったこと及び誤認識による誤操作防止対策が不十分であったことを挙げており、再発防止対策として、誤操作防止のためのハード対策を実施するとともに付随的な作業についても現場状況を踏まえて抽出したリスクに基づいて手順と役割を明確にすることなどをマニュアルやガイド等に反映することとしている。
 - ・直接の原因となった作業員が誤って押した緊急停止ボタンには、新たに誤認識防止のため、他のボタンのカバーとは異なるプラスチック製のカバーが設置されていた。（写真1）

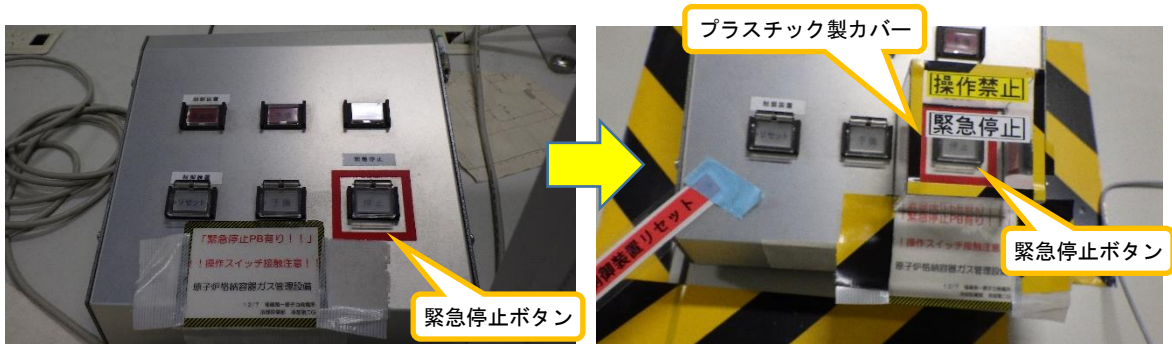
※1号機原子炉格納容器ガス管理設備排気ファン全台停止事象

令和2年11月12日11時12分頃、当該設備のサーバの交換作業を実施していた作業員の一人が、警報確認ボタンを操作する際に誤って排気ファンの緊急停止ボタンを押したため、1号機原子炉格納容器ガス管理設備排気ファンが全台（A，B）停止し、当該設備の放射線検出器による燃料デブリの未臨界状態監視が不能となり、運転上の制限から逸脱した事象。

同日13時3分に排気ファンの起動操作を実施し、14時40分に放射線検出器による燃料デブリの未臨界状態監視が可能であることが確認されて、運転上の制限の逸脱から復帰している。なお、1号機のプラントパラメータ、敷地境界ダストモニタ等の指示値に有意な変動がなかったことが確認されている。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1-1)
緊急停止ボタンの状況
(対策前：令和2年11月16日撮影)

(写真1-2)
緊急停止ボタンの状況
(対策後：今回(2月3日撮影))

- 5 プラント関連パラメータ確認
各パラメータについて、異常な値は確認されなかった。